

創刊号

長崎県公立高等学校事務長会  
長崎県立長崎南高等学校内  
〒850  
長崎市上小島町4丁目13番1号  
☎0958-24-3134  
標題：西陵高 田尻虎夫書

# ばってん



ごあいさつ

会長 松尾政美  
(長崎南高等学校)

年度末を迎え、会員の皆様には、何かとご多忙のことと存じます。

「光陰矢の如し」早いもので昨年四月の事務長会総会において、会長をお引き受けして間もなく一年を迎えようとしております。

その間、暗中模索しながら年間行事を消化することに、精一杯の日々を過ごして来たように思います。また労多くして功少しと言ったところが実感です。しかし、副会長をはじめ、役員、理事の方々の御助力と、会員の温かい御協力により、今日までその役目を無事に務めさせていただいたことに感謝しております。

さて、近年、わが国の社会は、高度情報化、国際化、高齢化が進み、また価値感の多様化、産業構造等の急速な変化をみています。

教育現場においても、多様なニーズを重視した特色ある学校づくりや、生涯学習、情報化、国際化等々の社会の変化に応じた教育の展開が求められていることは御承知のとおりです。

このような状況のなかで、事務長は、積極的に時代に対応できるプロとしての教育環境づくりのた

め、学校運営に係っていくことが必要であることは言うまでもありません。

全国事務長会では、事業目標として、三本の柱を掲げておりますが、その一つでもある「事務長の職務職制の法制化」の可能性も、また不断の努力の積み重ねの中から生まれくるものとして、全国の会員に期待しているところで

す。また、本県の事務長会においても、事業方針の中に「会員相互の連携を図り、自らの資質の向上に努める」ことを掲げております。

その方策として、今年には、総務・調査・研究の三部門にそれぞれ二つの専門委員会を設置し、より多くの会員が事業に参画し、研修できる態勢づくりに取り組んで参りました。

その委員会の中の一つに、広報活動委員会が設置され、本日ここに、活動の成果として、長崎県公立高等学校事務長会報「ばってん」の創刊号が発刊されるに至りました。会員一同この上ない喜びとするところであり、心から賛辞を送りたいと思います。

広報活動委員による「生みの苦しみ」に報いるため、これからは「育ての喜び」を味わってもらいたいと思います。そのためには、会員の絶大な御協力なくしては達成できません。

「碧巖録」の中に「啐啄同時」という言葉があり、「啐」は、鶏卵が孵化しようとするとき、雛が殻内でつつくこと。「啄」は、母親がそれに応じて、外から殻をつつく意。つまり機を得て、学人と師家との両者の心が投合することのたとえが、本校の生徒玄関前の掲示板に書かれておりました。

私は、雛が生まれてくる様子を現わしている、この言葉をしみじみと味わってみるとき、人生訓の極致を見るような気がします。

学人と師家をそれぞれ、原稿をお願いする人とされる人に置き換えても、うなづけるものがあると思います。相対する二つの呼吸が意気投合して、はじめてそこに新しいものが誕生し、成長して大輪の花を咲かせ、立派な実をつけてくれるものと確信しております。この事務長会報「ばってん」もかくありたいと願ってやみません。

最後になりましたが、創刊号の発刊にあたり、広報活動委員の積極的な取り組みと、関係各位の御協力に対し、お礼申しあげると共に、会員の、より一層の御支援を賜われますようお願い申しあげ、創刊号発刊にあたってのごあいさつといたします。

### 各委員会の活動状況

本会には本年度より六つの委員会が発足しました。それぞれの委員会で活動について暗中模索のところもありますがこれまでの活動状況は次のとおりです。

#### 組織検討委員会

- 1. 日時 平成8年10月11日(金) 13時～17時
- 2. 場所 琴海町 長崎県立琴海高等学校 会議室
- 3. 協議事項
  - (イ) 委員長(副) 選出
  - (ロ) 各専門委員会の設置経緯
  - (ハ) 組織検討委員会としての検討事項
  - ア、総務部会、調査部会、研究部会のメンバーについて
  - イ、専門委員会委員の選出のあり方について
  - ウ、部会と専門委員会の系統化について
  - エ、専門委員会委員の任期について
  - オ、長崎県公立高等学校事務長会会則の一部見直しについて
- これらについて、議論を重ねましたが結論に至りませんでした
- (二) 次回は、12月上旬に長崎市で開催(10月28日現在)

#### 広報活動委員会

- 1. 平成8年6月24日 (長崎)
  - (イ) 委員長(副) 選出
  - (ロ) 無理しないように本年度は「会報」を1回発行する
- (ハ) 参考の為に他県の会報を集める
- (ニ) 次回は9月上旬に川棚で開催する以上決定
- 2. 平成8年9月5日 (川棚)
  - (イ) 本年度の会報はA4判で4ページとする
  - (ロ) 1ページから4ページまでどこに何を掲載するのか
  - (ハ) 会報の標題を会員全員に募集する
  - (ニ) 10月の事務長会の折第2号以降

#### 授業料納入促進委員会

- 平成8年6月24日(月) 第1回委員会開催(時間:15時30分、於:協栄生命ビル)
- 1. 委員長、副委員長の選出  
委員長に長崎水産高校松尾事務長、副委員長に西彼杵高校吉賀事務長を選出
- 2. これからの取り組みについて協議
- (イ) 支払命令手続事務の詳細な手引書の作成
- (ロ) 督促事例集の作成
- (ハ) 統一した様式による納期内納入状況調の作成及び把握
- (ニ) 納入状況の実態調査・分析及び繰越調定の実務書の作成
- 以上、4項目の提言があったが、通常の学校事務及び来年度の事務職員全国大会開催との関係から無理のない取り組みを行うこととし、当面は、督促事例集を作成することとなった
- 平成8年7月9日(火) 第2回委員会開催(時間:16時、於:長崎市民会館)
- 1. 督促事例集の様式(案)及び依頼文(案)の検討
- 2. 提出依頼校の検討
- 抽出して行うこととし、13校へ依頼することに決定
- 平成8年7月10日(水) 1. 県下13校へ督促事例の提出依頼(締切期限:7月30日)
- 平成8年8月19日(月) 第3回委員会開催(時間:16時30分、於:長崎厚生年金会館)
- 1. 回答事例の検討
- 1. 回答事例の検討
- 回答があった事例(13校中10校13件回答)の中には、委員会が意図していたものと異なり、また、件数的にも

#### 事務職員定数と図書館業務研究委員会

少ないため、次回の委員会で再度様式を含め検討し直すこととなった  
次回の委員会は11月中に実施予定  
(10月31日現在)

#### 図書業務研究委員会

- 1. 平成8年6月24日 (長崎)
  - (イ) 委員長(副) 選出
  - (ロ) 本会の問題は図書館司書と事務職員定数からんでむずかしい問題を含んでいるため研究の進め方を検討する必要があるので
  - (ハ) 本会の研究は本年度のみでは結論は出せないで本年度以降の継続とする
- 2. 平成8年9月27日 (諫早)
  - (イ) 文部省の学校図書館充実施策等の資料を参照し検討
  - (ロ) 九州各県の状況と本県の方針分析
  - (ハ) 県教委の方針をうけ今後の研究の進め方を検討したが特に事務職員の定数については困難である
  - (ニ) 各校の事務長を対象にアンケートを取る
- (ホ) 次回はアンケートの原案作成(11月16日現在)

#### 事務長必携編集委員会

- 1. 平成8年6月24日 (長崎市)
  - (イ) 委員長(副) 選出
  - (ロ) 全国の作成事例を調査して、項目や内容を検討し、長崎県独自のものを作成したい
  - (ハ) 事例の集約後に、県内の全事務長へ掲載項目等について、アンケート調査を実施する
  - 以上決定
- 2. 平成8年7月2日
  - (イ) 各県事務長会会長あて、会長名で必携(執務マニュアル等)の作成有無について照会
  - (ロ) この結果、7県が作成、検討中が1県あった(この内、必携等の送付があった県:埼玉、栃木、千葉、神奈川)

#### 女性事務職員に関する調査検討委員会

- 1. 平成8年6月24日 (長崎市・セントヒル長崎)
  - (イ) 委員長、副委員長選出
  - (ロ) 作業日程の検討
  - (ハ) 調査内容及び調査手法の検討
  - (ニ) 調査内容の分担割当て
  - (ホ) 基礎資料の入手方法等の検討
- 2. 平成8年7月9日 (福江市・五島高校)
  - (イ) 各担当からの経過報告
  - (ロ) 基礎資料の集約と活用方法等の検討
  - (ハ) 調査内容及び調査手法の決定
  - (ニ) 調査依頼文書の検討
- 3. 平成8年9月6日 (福江市・五島高校)
  - (イ) 調査依頼に対する回答の集約(分析結果)を各担当から報告
  - (ロ) 各原稿の点検及び原稿相互の照合と調整
  - (ハ) 発表用配布資料の総ページ数、割付、体裁等について概略を検討
  - (ニ) 発表者の決定
- 4. 平成8年9月26日 (福江市・五島高校)
  - (イ) 原稿の最終点検
  - (ロ) 発表用配布資料の総ページ数、割付、体裁等の決定
- 5. 平成8年10月2日 (福江市・五島商業高校)
  - (イ) 発表用配布資料の印刷製本
  - (ロ) 発表に対する質疑への対応についての確認
- (10月31日現在)

3. 平成8年10月25日  
(イ) 秋季事務長会で全事務長へアンケート調査用紙を配布  
(ロ) アンケート集約後に、今後の取り組みや編集の役割分担等について、年内に編集委員会を開催の予定  
(ハ) 編集内容については、既存の資料と重複しない使い易いものを考えている。  
(10月31日現在)

# 全国公立高等学校事務職員研究大会 長崎大会の成功を目指して

実行委員長

飴谷 壽一 (北陽台高)

第五十回全国公立高等学校事務職員研究大会が、平成九年七月二十九日から八月一日にかけて本県で開催されます。

本県での開催は、もちろんこれが初めてであり、我々にとっては最初で最後の経験となるのではないのでしょうか。

また、五十回という意義深い記念の大会でもあり、協会本部では記念誌の発行を予定いたしました。

更に、本県では経済の活性化、観光の浮揚を目指してコンベンションの誘致を図っており、県の施策とも合致するのではないかと考えています。

このようなことから、是非、成功させたく思っておりますので、事務長はじめ全事務職員の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

## 一 大会の概要

(一) 統一テーマ

教育の改革と発展をめざして

(二) 参加者

四、〇〇〇名(予定)

(三) 会場

全体会：県立総合体育館

分科会

一：県立総合体育館(サブアリーナ)

二：県立総合体育館(メインアリーナ)

- 一：長崎市民会館
- 二：長崎市公会堂
- 三：長崎新聞文化ホール
- 四：記念講演講師
- (財) 日本相撲協会理事長

境川 尚氏

## 二 これまでの経過等

平成六年七月六日

九州協議会において長崎開催を依頼される

平成六年九月三十日

本県協会臨時理事会において受諾を決定

平成六年十月十七日

九州協議会において受諾を表明

平成六年十一月三十日

全国評議員会において第五十回大会の長崎開催が発表される

平成七年八月十一日

県協会総会時に受諾について説明(了承される)

同時に実行委員会会則(案)、組織(案)、日程(案)及び予算(案)了承される(人選等については理事会一任)

平成七年十一月二十二日

第一回常任委員会開催(以後、月1回開催し、現在まで十回開催)

平成八年七月二十四日

山形大会での総会で、本県開催が正式に決定される

三 大会従事者(地区別選出人数)

地区別	実行委員	当日係	計
長崎・西彼	二七	一七	四四
佐世保・北松	二二	二二	四四
諫早・大村	二二	一八	四〇
島原・南高	二二	〇	二二
五島	〇	一三	一三
壱岐・対馬	〇	一〇	一〇
計	九二	八〇	一七二

## 九州地区公立高等学校事務長会報告 (平成八年六月六日~七日)

小浜高校 永田 董

つゆ明けきらぬ那覇市、曇りがちだったが、雨が降らなかったのは幸이었다。

研究発表は、本県から「自家用車と公務」について、野母崎高等学校校長岡事務長、沖繩県から「総合学科」に関しての発表がなされた。研究協議では、沖繩県・本県を除く六県から課題が提案された。特に興味を感じたのは、熊本県立阿蘇高等学校の「学校・家庭・地域社会の連携の在り方について」であった。家庭訪問、二者面談、PTA総会等は殆どどの学校で行われていることであるが、保護者の教育に対する関心を高めるとともに、家庭教育と学校教育の役割分担を明確にし、連携の重要性を認識してもらうために、毎月二回の授業参観日を設けている。

授業参観は、保護者の都合のつく



第10回 常任委員会  
H9.1.30 (佐世保)

時限の授業を参観でき、担任との面談や進路相談等もできるとのことにはいささか驚いた次第である。問題提起は、いずれにせよ、生徒の減少と質に危機感を持ち、いかにして生徒を確保し、卒業させるかが、単位制であり、総合学科制であり、また総合学科選択制制校である。

## 学校の紹介

### 「校舎改築と天地の恵み」

鹿町工業高校

橋村

鴻志

昭和37年4月、広大な旧炭鉱跡地にできた校舎は、地盤が悪く老朽化が進んだため、運動場に校舎を新築、全面移転し現校舎側に運動場を作る建設計画で、平成7年6月、県下の工業高校では最初の全面改築工事が始まった。

まず、7年度には機械科・電子工学科・情報技術科の実習棟が完成した。7年度末から8年度にかけての継続工事として、化学工学科及び電気科実習棟ができ、3階建4棟の全工学科実習棟が、8年10月末に完成した。

9年度からは教室棟および管理棟の改築工事が予定されているが、完成後は学校の所在地である鹿町町で最も大きい最新の施設になるものと思われる。

7年度に完成した新実習棟の屋上に太陽光発電設備が工業高校にふさわしい「思い出に残る学舎整備事業」として、NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)

の補助金の決定を受けて設置された。

最大出力 30kW、事業費 約6千万円（NEDOの負担分2/3）、計画では学校で使用する電力の1/3をまかなう発電量があるソーラーシステムである。

共同研究として、5年間はNEDOにデータを提供するようにになっている。また、生徒の実習で使える、計測装置も導入している。

7年11月、新校舎の便所の洗浄水として利用するため井水工事をしたところ、400mを掘削した地点から湯気が立つ湧水（温度30℃）が大量に湧出した。

湧水量 日量・約550t、水质を検査した結果、ナトリウムイオンと炭酸水素イオンを含む良好な水质の、美人湯と呼ばれる温泉と分かった。学校に温泉が出たのである。

学校では、トイレのみの使用に止まらず、プール、寄宿舎の浴室など多方面に利用できると大変喜んでいいる。

鹿町町の関係者も、県の許可を得て町でも利用できるようにすれば、大きな町起こしになると早速、町の広報に掲載するなど、多大な期待を寄せているようである。

坂井前校長は、この学校には「天の恵み・太陽光発電」と「地の恵み・温泉」ができた。後は「人の恵み・人材」などと冗談を言っておられたが、まさに「地の恵み」の温泉を、これからの高齢化社会の中で、この町の活性化に生かすことができれば、学校としてもこれ程、地域に貢献できるものはない、町にとっても願ってもない「地の恵み」になることだろう。



屋上に太陽光発電設備を容した実習棟

随想

つばき



学校の常識と

事務長の立場

田上武廣（長崎東高）

私が、十七年ぶりに学校事務の職に戻って間もない頃のことである。ある日、全く心当たりのない人からの結婚式の案内状が、自宅の郵便受けに入っていた。

疑問に思いながらも、二、三日そのままにしておいたが、そのうち、ふと思いついて教職員録を調べてみると、それは何と、同じ職場のある先生からのものだった。

その後、事務長として三校十年あまりを経たが、類似のことを何回か経験した。だんだん学校の様子に慣れてくると、「○○先生の結婚式案内状が郵送されてくる頃だ。」とわかる。するとやはり、

そのとおりになる。

その先生とは、毎日の朝会で顔を合わせるし、その他の場でも接することはよくある。何か言葉があるのかなと思つて、それとなく視線を向けるが、何の反応もない。そこで私もそのまま黙ってしまふ。「私のほうが狭量で意地悪な根性なのかな。」と、密かに反省してみたりする。しかしやはり、「結婚式の案内をいただきます。おめでとうございませう。」とは、こちらから素直には言えない。

毎日職場で顔を合わせる仲であれば、一言でよいから、案内する側から言葉があつて然るべきだといふのが、世間の常識ではないだろうか、と私は考える。

こんなことが度重なると、これは単に、その先生が特別なのではなく、教職員社会というものの中に、何か気にかかるものがあるのではないかと考える。

案内された他の先生方や教頭に聞いてみると、どうも私の場合とは異なつていふことが多い。そこでまた考える。「ああ、事務長というものは、この先生にとつては、仕方なく義理で案内する。そういう立場なのか。」と寂しくなる。

人間は、同じ職種の集団の中に、少数の異なった職種が混じつていると、そこにどうしても目に見えない軋轢のようなものを感じるこがある。こんな経験をすると、ついそこまで考えてしまふ。

しかし、これではいけない。事務長というのは、専門の仕事上のことは別として、職場での付き合いは、職種の壁を取り払つて、皆に親しまれる存在になることが、学校のためにも「自分の仕事のためにも、大切なことだろう。」

また同時に、学校独特のものと考え方（学校の常識？）と、社会一般で行われている常識とをよく見極め、学校が世間から、特殊な社会と言われぬよう気を配ることも、事務長の務めではないだろうか。

もつとも、これは学校の世界だけでなく、企業や、政治家や、高級官僚や、宗教集団の世界でも、そこだけで行われている常識があることも、私たちは見聞きしている。

定年を間近にして、今更運ずることではあるが、事務長という仕事の難しさと、力不足を感じることもしきりである。

編集後記

平成八年六月二十四日広報活動委員会が発足しこれまでの編集委員会は三回。八月までに全国各県会長に会報の惠贈をお願いし十四県から御協力いただいた。感謝申し上げます。八名の委員はあるだけの智恵をしばらく創刊号の内容検討に入つた。数名の方には原稿をお願いしたが皆快くお引受けいただいた。御礼申し上げます。標題の「ぼつてん」は全国に通じる長崎のイメージと事務職員が学校運営の円滑化に努力し勤勉な姿を表現した「ぼつてん頑張ろう」の意をこめてつけられた。第二号は九月発行予定。本会報に対する御意見、御希望をいただきたい。そして割愛で困るような多数の投稿を期待する。

（島原上高 高木伸明）